

『後世に残したいラオスの伝統と文化』

ビヤンナコン ジャンティップ

サイヤブリー県 サイヤブリー高校



文化は、国家の財産であり、国の独自性を示すものです。私達の国ラオスにも、日々の暮らしの中に息づいている素晴らしい文化があります。私は、私達と切り離すことができないラオスの文化を大切に、その素晴らしい文化を守る努力をし、後世に残して行きたいと思います。

私達の国ラオスは、豊かな美しい文化を持っている国の一つです。ラオス人はみんな豊かな文化を持つこの国に生まれてきたことを誇りに思っています。もちろん、私自身も同様に感じています。ラオスの文化は、ラオスの国家と共に生まれ、いつの時代も社会に暮らす人達に、その慣習を守って暮らしていくことを教えてきました。例えば、礼儀、上品な話し方、作法、常に目上の人に対しては礼節をわきまえることや礼儀を重んじること、お寺で説教に耳を傾けることなどは、ラオス人が昔から培ってきた文化なのです。

これ以外にもラオス人の独自性を表しているものがあります。例えば、素晴らしい芸術、舞踊、歌、ラムという語り芸、寺、遺跡、古い仏像などです。私が住んでいるサイヤブリー県も、長い間信奉されてきたシーブーンフアン寺に見られる独自の文化や芸術を持っています。

だからこそ、私達はずっとラオスの文化を保護していくべきなのですが、今日では、社会に見られるように、一部の若者はラオスの文化に関心を払わなくなってしまうようになりました。ディスコやバーに出入りし、短い洋服を身につけ、お酒に酔い薬におぼれるといった社会を後退させる問題を生じさせている一部の人達のことがテレビ、ラジオ、新聞などで報じられています。このような事柄に対して、私の暮らす村では村長さんが、村の人達に、寄進をしお寺にお参りに行くように、また、悪いことをしたり、ラオスの文化を壊すようなことをしたりしないように呼びかけています。これは服装や慣習に即した社会生活のあり方などについての話です。

私は、将来を担う小さな芽である若者、いいえ、全ての国民が国や文化を売るようなことをせずに、国の文化を守っていかなければならないと考えます。自分達の文化を愛し大切にすることを知るべきなのです。独自の文学を愛すること、また、それぞれの県・地域は、意味は同じでも発音の違った言葉（方言）を持っているのですから、乱れた方言を使ったり、方言が消えてしまったりしないよう大切にしなければなりません。「言葉は国を表し、礼節は育ちを表す」という言葉があります。私自身も語り歌を守り、ラオスの素晴らしい文化を学び、また、文化について多くのことを知っているお年寄りから美しい伝統慣習を学ぼうと努めています。ラオスの文化をこの地球上に、ラオス国民の精神の中に、後世に残すためにも世界の素晴らしい文化を学び、豊かなラオスの文化を国際的なメディアに対し広めたいと思っています。文化というのは、ラオス人の生活に触れてみたいというように外国人観光客の気持ちを惹きつけるものでもあり、国家にも収入をもたらすものだからです。素晴らしい民族衣装に見られるように、日本も同じように素晴らしい独自の文化を持つ国の一つです。私は、本物に触れたことはありませんが、テレビやラジオ、新聞、雑誌などから日本が独自の古い文化を持った有名な国であることを知ることができます。私は、日本と同じようにラオスの文化を後世に残したいのです。

文化は、私達にとって最も大切で必要なものであるということが出来ます。もし文化が国から無くなってしまったら、国のアイデンティティーも消えてしまうでしょう。だから私はラオスの文化がいつもラオス人と共に在るように、自国の文化を見捨てないでいつまでも大切に守って行きたいのです。